

藻類採集地案内

千原光雄： 神奈川県七里ヶ浜 Mitsuo CHIHARA: Shichirigahama Beach, Sagami (Kanagawa Pref.)

鎌倉より江ノ島鎌倉観光電鉄に乗り、10分程走ると、“いなむらがさき” 続いて“しちりがはま” に着く。左手に相模湾が広がり、遠く水平線を望む。「どこで海藻採集をしろというのか。岩場などさっぱり見えないではないか」。一見、そのように思い込ませる海岸である。ここでの海藻採集は、低潮時の潮高が－(マイナス)cmを示すような日でないとならぬ。もし、このような日であれば、干潮時には、七里ヶ浜一帯に平たい岩盤が沖合にかけて露出し、素晴らしい海藻採集の場所が出現する。波さえ静かであれば、危険性はまず無く、したがって初心者にも好適な採集地といえる。

海藻の生育が豊富であること、東京からの便が良いこと、近くに、やはり海藻採集地である江ノ島があることなどの理由から、昔から、海藻研究者や採集家の多くがこの地を訪れている。その結果、江ノ島を含めて、この付近に type locality をもつ海藻の種類はかなりの数に昇る。東京オリンピック開催の際に、ヨットハーバー造成のために、江ノ島のもっとも好適な海藻採集場所が埋められてしまった現在、七里ヶ浜海岸は、わが国の海藻の研究歴史の上で、とくに大きく意義づけのされるべき所でもあるだろう。

七里ヶ浜・稲村ヶ崎付近の海藻相についてとくに纏めた論文はない。これに近いものとして、江ノ島より三崎を経て房総半島先端に至る海岸において採集された海藻をリストアップしたという東道太郎(1935)の“江之島館山及其附近産海藻目録(改訂)水産研究誌 30: 2/3, 1-19”がある。これは、初め同じ題名で水産研究誌 24: 2-5 に発表された報文の改訂版である。

さて、七里ヶ浜の露出する岩盤上やタイドプール中などで採集できる海藻の主なものあげると次のようである。緑藻類：チャシオグサ、ヘライワヅタ、フサイワヅタ、ミルなど。褐藻類：ムチモ、アミジグサ、サナダグサ、シワヤハズ、ヘラヤハズ、ウミウチワ、コナウミウチワ、カヤモノリ、ハバノリ、カゴメノリ、アラメ、ワカメ、アカモク、オオバモクなど。紅藻類：マクサ、オバクサ、ホソバナミノハナ、ウスカワカニノテ、フサカニノテ、ピリヒバ、ムカデノリ、スジムカデ、ヒラムカデ、キョウノヒモ、タンバノリ、ツルツル、フダラク、ヒトツマツ、ツノムカデ、ペニスナゴ、タチイバラ、イバラノリ、カギイバラノリ、オゴノリ、カバノリ、ハリガネ、ツノマタ、オオバツノマタ、ケイギス、ハリイギス、トゲイギス、クロソソ、ミツデソソなど。

七里ヶ浜の海藻採集の面白味は打ちあげ採集にあるといってもよい。時期は春から初夏に限る。海が荒れたと思う日の翌日か翌々日、そのような日が大潮日と重なっていればさらに具合がよい。磯採集と打ちあげ採集の両者を楽しむことができるからであ

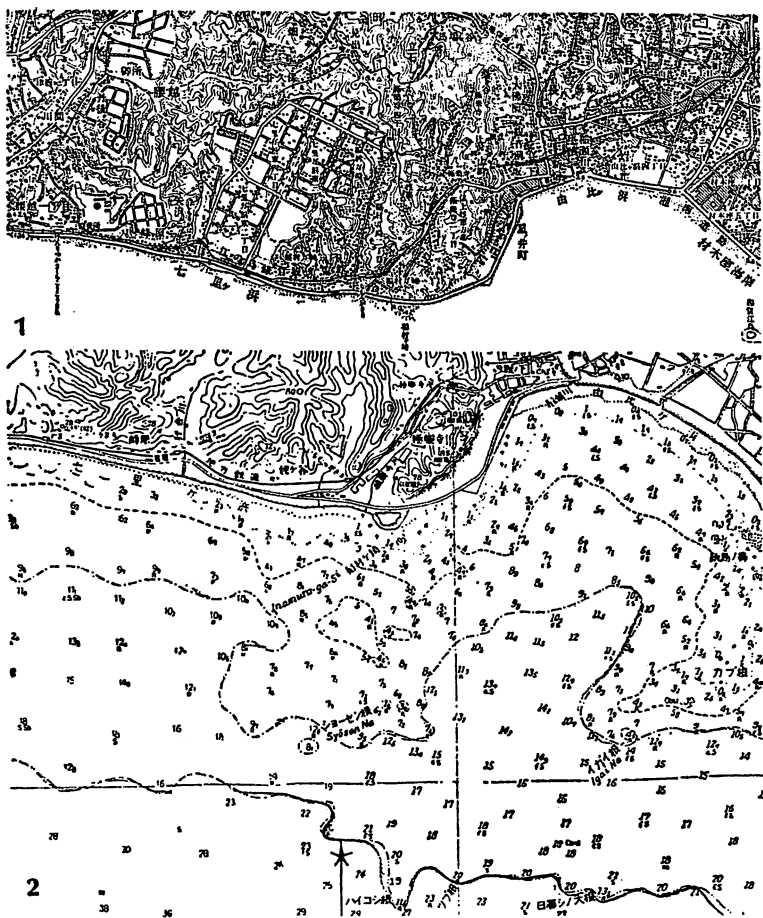


図 1. 神奈川県七里ヶ浜海岸； 2. 同海図（ともに約 1/13,000）

る。いままでに打ちあげで得た海藻の主なものを次にあげる。緑藻類：ヤブレグサ、フジノハツタ、タマミル、クロミルなど。褐藻類：ヤハズグサ、シマオウギ、タバコグサ、アントクメ、アオワカメ、オオパノコギリモク、エンドウモクなど。紅藻類：フサノリ、ヒラフサノリ、タマイタダキ、コヒラ、キヌクサ、ヒラフサ、エツキイワノカワ、カニノテ、オオムカデノリ、マルバグサ、ナガキントキ、オオバキントキ、ヒロハノトサカモドキ、ヤツデガタトサカモドキ、ホソバノトサカモドキ、キヌハダ、ホウノオ、ミリン、トサカノリ、ユカリ、ツルシラモ、ハスジグサ、ヘラワツナギソウ、ハネ

クスダマ、キヌイトグサ、フタツガサネ、ヨツガサネ、フサネカサネグサ、リュウソタマ、ヨツノサデ、カザシグサ、イトシノブ、サエダ、ハブタエノリ、ハスジギヌ、ヤレウスパノリ、カギウスパノリ、アヤニシキ、イソハギ、シマダジア、ダジモドキ、ハネソフ、コザネモ、ジャバラノリ、ヒオドシグサ、アイソメグサ、ヒヨクソウなど。いわゆる珍希品の種類といわれる海藻をここでかなり得ることができる。私事に亘るが、私は学生時代に初めて七里ヶ浜を訪れ、稲村ヶ崎から小動ヶ崎にいたる2 km 余の長さの砂浜に帯を長くのばしたように黒々と打ちあげられた海藻の中から、それまで図鑑でしか見たことのない海藻を多数採集し得た時の感激をいまだに忘れることができない。以来、私の知りたいことの一つに、一体これら珍品、希品の海藻は七里ヶ浜の沖合のどのあたりに生育しているだろうかということがあった。幸い、昭和48—49年に神奈川県に依頼で、海藻植生の調査のために、この沿岸を潜水する機会に恵まれた。図2の海図からもわかるように、沖合約2 km に水深20 m 線がある。この付近のハイコシ根とツブ根には海藻の群生状態は見られず、わずかにシマオウギの散生を見たに過ぎない。深度約10 m のショウセン根付近から深度8—7 m の岩上にかけてはカジメ群落が優占し、下草としてシマオウギ、タマイタダキ、マクサ、ユイキリ、エツキイワノカワ、キントキ、ユカリなどが生育するが、量的には多くない。ところが、深度5—4 m にいたり、アラメ、カジメのほかにはハブタエノリ、ハスジギヌ、ヤレウスパノリ、ダジモドキなど、さきに打ちあげ海藻として列挙した種類のかなりを見ることができた。なお、七里ヶ浜一帯は一般には潜水が禁止されているので、潜水希望者は予め地元の漁業協同組合から許可を得る必要がある。

交通 横須賀線で東京駅より鎌倉駅まで約1時間。鎌倉により江ノ島鎌倉観光電鉄で約10分、「稲村ヶ崎」または「七里ヶ浜」下車。新宿からは、小田急江ノ島線で藤沢駅まで行き、ここで江ノ島鎌倉観光電鉄に乗換え。車では、相模湾沿岸に沿って走る国道134号線にでること。七里ヶ浜駅近くに駐車場がある。

(筑波大学生物科学系)